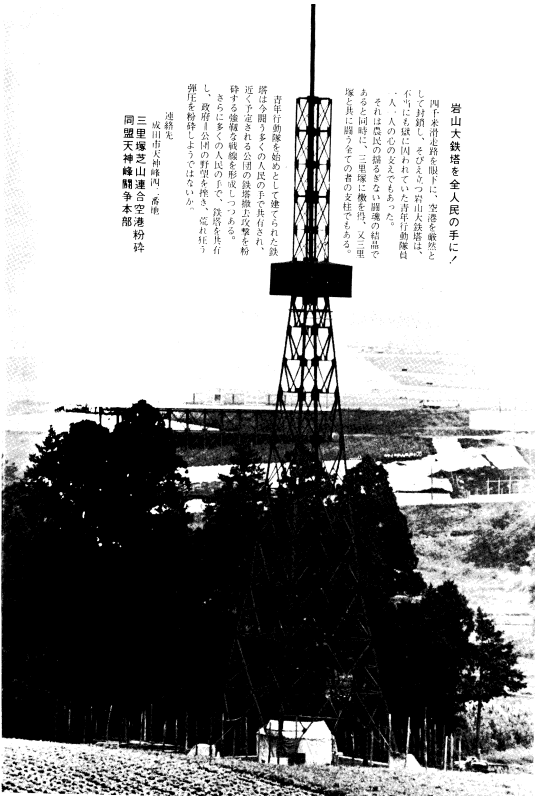
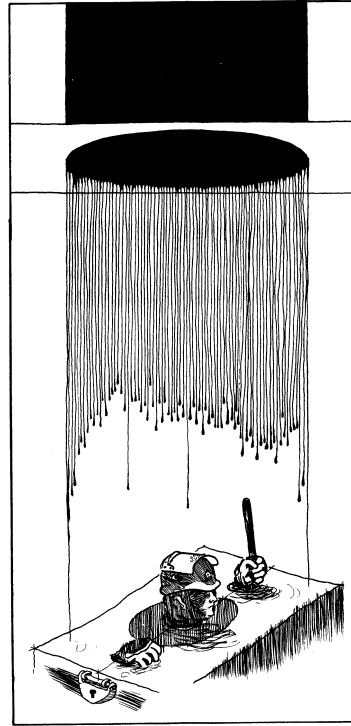


# 三里塚青年行動隊員 の獄中からの手紙

国家の悪意は我々に対してばかりでなく、実は本質において彼らにも及ぶのだよ。



岩山大鉄塔を全人民の手に  
山下清吉君を代表して、空襲を親雲と  
し、財源は、いわんが山鉄塔建設  
不可に採られるものである。この  
人、人々の支えである。それは  
それは市民の知らない運命の結晶で  
あると同時に、三里塚に集まる、又三  
里塚に闘うすべての者の支えである。

青年行動隊を結成して進んだ鉄  
塔は、今よりも多くの空襲被害を防  
ぐことのできる公共施設であり、  
守るべきである。三里塚青年行  
動隊は、政府の公団の野郎を推し、  
弾性を喪失しようではないか。

三里塚青年行動隊本部  
三里塚青年行動隊本部  
三里塚青年行動隊本部

この獄中からの手紙第二集を編集集中  
二十名の青年隊員同志が保釈になりました  
全員共に元気、精神的にも一回りも大  
きく見えたものでした。  
今後の長期に渡る裁判闘争へ向けられ  
争宣言として、この小冊子を皆さんに御  
届けします。

### 青年行動隊 救済委員会

今回の保釈面談が十月二日になったと聞いた時「あ  
これで文男の一週間は出られない」と覚悟を決め  
た。また泣いてしまうのかと、盆のとき泣いた事を思い  
起してにやにやして自分でも意味もなくおかしな事思  
てしまった。  
早いもので二年もたつのである。彼が死んだと知らざ  
れば、普通だったら「本当か」と聞直す程重大な  
事であったと思ふ。けれど冷淡にも何の感情も湧かず、  
しるすおやうか、簡単に受けとれた。なに  
かそういつた様な印象を残して死んでいったのである。  
いい人若死にするというけど彼もその一人であると思  
う。  
あんなに若い連中に暮れた人はいないし、部落の人  
人にも、文男ちゃん文男ちゃんと言われていた。  
俺たちとりまく人間関係の中では、中心的存在であり、  
その後のもつ後しい、すなおな、それについてラジ  
カルなとくさな人間らしさは、彼独特の思想を形成し  
ていると言つてもいいと思ふ。  
けれどどことなく線の羅さが気にならぬ事もあった。

あまりにも正直すぎるし、自分を偽ることできない、  
うそはやれないし、普通の人がなして通る事でも彼は  
は、そんなに簡単に物事をさけて通る様を器用な奴では  
なかつた。物事、損得の無いそのうたふるまひは、と  
かく住みにくい社会の人間関係にあっては、異様な光を  
放つていたと思う。人の思想構造は千差万別だろうが、  
それでもなかと云いたいような、独特のものを彼は彼が  
もつていたと思う。  
彼は正直な一途な思想が支配し、固いゆえに、日  
和な事はあつても俺などの様に日和り放して、他は適当  
な対象物を見つけてることによって、自己を正当化する様  
を人ではさらさら無かつた。  
そして、こいつはかもしろい野郎だと思つたのは、  
気遣いとか白黒を見る目が衰つていた。あの様な人達  
はいいな、何も考えないで、メシを喰つてくたれて、潔  
居られて、犬畜生もらやましいな、毎日走り回つてい  
て、仕合せだなどといひ、主目的には、生とか死、在と  
か無とかないし、権力とはおおよそかけ離れた存在だか  
らな。死んでしまえば何も無いからな。人間一度はどつ

ちみち死ぬんやう。  
こんな言葉が冗談に聞いて、変な男だとな前は、俺な  
ど相入れない領域をもつていた人だと思つた。そしてこ  
のすばらしい領域を権力によつて犯され、不本意にも死  
という方向へおねじ曲げられ、自らの生を断られたら  
である。生きる中であつてこそ、その死とか無への感傷  
を感じ切れたのではなかつたのか。  
三里塚で苦痛の悪魔の権力を痛感していたのは彼  
なのだつたと思ふ。彼は又、一番の悪い感じ方  
であつたと思ふ。彼のもつナイフ、分の悪い感じ方  
でジカルな思想と行動を、俺達には受けがたい。彼が最  
後に書いた文章の中に「そして我々が青年行動隊の皆さ  
ん、いつまでも三里塚の地に生き続けて下さい」と言つ  
た言葉を彼の本物の言葉として、その重さを背負つて生  
き(闘)なければならない。  
今に於いては、俺達がしやれるのはそれくらい的事  
だという気がする。  
徒然なるがままに書きました。一周忌を獄中で迎え、  
又意味もなく泣いてしまひそうです。

九月二八日

石井 恒司

(電文)

サンノミヤズエ様 (八月十六日)
アスサンノミヤズエ様、オレチノブナマデヨ...

アスサンノミヤズエ様、オレチノブナマデヨ...

(注・ケンには秋吉一、ツネは石井恒司)

ナキドウシノ一シユウキヲムカエゾクチュウセイコウダ

認めなかつたとしても、自分の信念といふものは、変えることはなく、甚々、より強固に立ち向い、我がの戦う敵の前には弾圧も無力であることを示すのだらう。

あつち

我々の使命だと思ふ。動うとして静かな海に我々が石を投げよう、必ず大きな波紋を呼び起こす。俺は信ずる。共に闘おう!

九月二十五日

相川 勝雄

(小川了秀)

前略

昔様、お久しぶりで御座います。獄中生活もすつかり板につきました。もう早いもので二月を過ぎました。

私は、今のところ大変元気で、外からの気遣いは心配いりません。私の現在の心境は、非常に豊かな気持ちで獄中を暮し、これから有るべき裁判斗争又は、岩山大獄塔への闘いへと心の炎を高ぶらせ、不退転なる信念のもとに闘う気持ちで、更なる三里塚闘争の夢を毎日見えています。

又、最近不当なる逮捕が有つたとか、甚本願に来るは

かり、獄外でのたび重なる弾圧の嵐はさだ休まる事を知らない様です。闘いに弾圧は付きものですから、いちいち頭に來ていたのでは闘いになりませんが、昔様は弾圧をなにするものぞとい毎日常三里塚の地を駆け回って居ると思ひ、私共青年行動隊は築業に獄中生活を送って居ます。闘いの通中色々光輝が有るのだらうと思ひます。批判無様様様張つて下さいな。

中核様

石井 恒司

前略

昔さん、元気で御活躍の事と思ひます。私方もせめて出獄するまでは、色々本など読んでみたらし、勉強の真似事なぞして別荘暮らしになりました。本来これは獄中なんです、みんなが別荘別荘と語り、自分も別荘をあれあれと語り、水産便所に流しが有る事は前は二合階上五号なんです。水洗便所に流しが有る事は前に書いたつげり田舎(十号)に比べたらやれ別荘なんです。この間、バナナ六、大福在個、センパイ一袋を買つて置いたんです、どうも目に付いていけません。

この野郎と思ひ、食事後一度に食へてみました。苦しかったです、もう調食以外には買わない事にしました。こんな馬鹿な事、前にまかせてやつて居るんですか、何日だったか面会に内山さんが來ましたね。今日日は、ひよつとしたら誰か美人が來る様な感じがしてね。案の定來ましたね。女の人、美人が。此々は色気がまつた女で、それと旦那が執行猶予になったという表情には

九月四日

獄中頭張つてる者より

石井 恒司

(野戦病院宛)

前略

秋前線の影響でしよかな。雨がよく降ります。雨を見ながら腹のへるを我慢して居ます。獄中単調な生活に飽きてしまふのではなれぬと思ひ給食を敢行しました。胃の調子はそんなに悪くはないのですが、今日(十五日)で二日目です。昨夜は腹がへつて寝られませんでした。うつらうつらしている何か食べている夢を見ました。一夜中そんな夢ばかりで、他の中に渾身悪魔がしりとり食ふことを要求するのです。夢の中では、悪魔に負けてさい分と物を喰つた様でし。二日目にならぬといふ憤れて来ました。今日までは買物するつもりです。それにしても何となく寂しいです。食物を取らないという事がこんなに辛いとは思いませんでした。ああ腹へつた食事の時間になると皆がうませ

りに喰つているのが目に浮かぶ様です。こんな時は色々食物の事を連想するもんですね。何はともあれ。あれも有りだろ。出獄したら、たらく喰つてやろうと思つて居ます。この手紙の紙のくが十八日過ぎてしまふ。十六日の三里塚を何とかの集會、いかにものでしたか。たぶん残つた青行の連中、集會に向つて四苦八苦して居るのが目につく様です。どうしてたか新二。又野戦に居るのかな？お前さんはそんな事あり気にかつた方ではないからな。福作はどうか。豊年でしたか。成田も「ヒロワ」が降つた地域が有つたうでうで。新聞で見ました。五重田の被害がそれか人生変化が有つていよう。あまり手々凡々では、人間にどうしてろくな事か無いか思ひますから。罪な？福作の皆さんも手紙を見るという事ですから、一言、収帳やらにやんで大要忙がしと思ひますから面会を差し入れたと千葉まで来なくともいふからな。大変でしょう。会わないで居ると、居無くなるという事でもないでしょうから。必要に応じて手紙は出せばいいので、勝義も治も元気で居ます。もちろん俺も元気で頑張つて居ます。たま

-7-

十八人の建物に居る。朝は七時頃起床、掃除、洗面それから点呼をとつて朝食は七時半頃になる。昼食は十一時半頃。夕食は四時半頃に終わる。ラジオ放送は五時半頃から九時までである。日曜日は十二時から四時まで聞くことができる。五時夕方の点呼があり、六時半頃就寝。床をとつて寝てもいい。九時に就寝になり減灯する。運動は月曜と木曜と土曜の四回、二十分位。入浴は水曜と土曜の二回十分位でゆつて居る。食事はあまり動かないから脂肪が多く感じ。麦飯です。青行の産物も元気でみんな頑張つて居る。心配ない。果てなのが三つ。部落や公民館の連中が援護してくれて、昨午より手がまわつた感じだ。部落や公民館、手紙を出すようにするが、礼をいふといふ。みんなによろしく。面会に来てくれた人達に気をつけたい。せうせうかもある。あまり話す言葉もなくなつちやう。ここにいると緊張して居ます。無口になる。顔を会わすだけで嬉しい。一言でも多く話そうとして居るのがよくわかる。どうも有り難う。

関り皆様へ

石井 恒司

(野戦病院宛)

敬具

福刈も終つたよりだ。人參の問引きをやつて居ること(面会)で。

先日、腹痛をもち、二日ばかり休業もつて休んだら腹手はよくなりました。夜になると冷えるせいとか、背中が少し痛む感じがするが大丈夫、心配ない。

こつちへきてより四十五日位になつて居る。八月十四日、二時千葉の刑務所に来た。前の所とは違う建物だ。十六日に新しい倉庫に移つた。青行の連中も移つたがバラバラだ。九月四日に北側の新しい建物にまた移つた。二階の東側の端、西側の端には番さんが居る。青行は

有り難う。

-8-

八月 十五日・石井・笹川

八月 十七日・井護士・佐々木(野戦)

八月 十九日・石井(セイベイ)

八月 二十二日・手紙

八月 二十三・高橋(公民館)

八月 二十四日・公民館・井護士

八月 二十五日・石井・高松・木村

八月 二十六日・岸上

八月 二十八日・渡辺・掛川

八月 二十九日・佐々木

九月 一日・現調

九月 四日・浅川

九月 六日・岸上

九月 七日・井護士

九月 八日・三浦

九月 九日・手島・秋葉・岩沢

九月 十一日・千葉(おばさん)

九月 十三日・藤川・塚本・石井

以上面会してくれた人

九月十三日

石井 豊

(井すみ(祖母)宛)

たびたびの差し入れありがとうございます。皆さんの励まにより頑張りがつて居る事が出来た事を深く感謝しております。この生活も、だいたい慣れて来ました。皆さんによろしく。

九月二日

梅沢 勝義

(梅越昭平宛)

前略  
毎日、暑い日が続いていますが如何お過ごしですか。此

の調は、差し入れどうもすみませんでした。私もお蔭様で元気で頑張つて居ますので今後ともよろしくお願ひ致します。

九月一日

町田 清  
(小川 了亮)

秋の強い日射しの中にも涼やかな風を感じさせる今日此の頃、元気で農作業に励んで居ると思ひます。此の面会に来たくれた同僚の人より、滝沢さん始め、皆さんが援護に来てくれたことを聞き、本当に有り難い思ひました。そしてまた、現在、改めて農民としての固い団結を強く感じさせられました。お互いに頑張ります。私も皆さんの強い御支援と激励により、元気で暮しておりますのでよろしく(皆さんにも)。

九月十六日

町田 清

前略  
もう西瓜も一段落して落ちついたことと思いますが、二年連続して忙しい夏をわがえてきた大変な年だと思ひます。こちらの状況はいい方です。変わったことはありません。全くいいかげんな逮捕拘留。何が何でも権力の面子だけは保とうとする起訴、フィクション(東の人物、団体とは一齊関係ありません)による取り調べ。ブル新をつかつてのデッチ上げ、不当を正当化しようとする権力。弾圧に弾圧を重ねられてゆく秋の反対同盟、青年行動隊。しかし六年間の長い闘争にたげられてきた百姓は絶対に負けるとは思ひません。三里塚・芝山の農民は必ず勝つと思ひます。九・一六の集會をもに闘う。

九月十二日

相川 勝重  
(小川 了亮)

-10-

死闘目録に申上げます。

皆様が変更ありませんか。私も元気であります。こ  
こ四・五日は激しい毎日が続いてありますが皆様がいか  
がおすてですか。先日青年女部隊より便り届きました  
又師が赤ん坊と一緒に面会に来ました。こちらはこれと  
いつて変わったことはありません。毎日の生活の中で運動  
・面会・風呂と、一日、二・三回房から出る事ができ  
本を洗んだり手紙を書いたりしている同志の姿を見るこ  
とが出来ます。

恒司・勝義・相川・斎藤などと話をする事は出来ま  
せんが顔を見合せること、しばしば元気でいると思っ  
て毎日です。では皆様がよろしく近況まで。

八月二十六日

島村 昭治

前略  
面会どうもありがとうございました。また救援活動あ

九月十九日

北原事務局長様へ

秋葉 憲一

皆さん元気ですか。もう稲仕事もすんだそうで仕  
事の方も一段落ついたところでしよう。暑い長い夏から  
も解放され、ようやくさわやかな季節になつてきた様で  
何よりですね。辺田の谷津から中野にかけての一番が、  
福かぶやオオによつて一層秋が深まりつつある風景を静  
かに頭に浮かべています。

こちらでの生活も、もう部落の人や小川プロの皆さん  
に聞いて知っているかと思うけど、元気にやっています  
から安心して下さい。二階建ての鉄筋コンクリートの丁  
敷二階に部屋が三〇至位あるその真中あたり、勿論一  
人である訳です、三〇室のうち同志が一〇八位入  
つているので、よく顔を合わせるがあります。部屋

りがとろごさいです。獄内にいる者にとって本心に強  
いてです。こちらにも九月に入りやつとしのぎすくなくつて  
きました。

逮捕されてから二ヶ月もよつとになりますが、体の方  
はいつて健康で元気でですので心配ありません。食事も  
全部食べられるし、パンも肉類も買つて食べられる  
ので心配ありません。また一回り大きくなつてきたよう  
です。

俺も今回は国家権力の強大さを、そしてその裏の極め  
てきたない陰謀をまざまざと身をもって知らされました  
だからたとえ長期拘留されようとも頑張ります。

反対同盟も福地等の秋の取り入れが始まり、さぞ大  
変でしょうが闘争と仕事を両立させて頑張つて下さい。  
九・一六集会も圧倒的成功を勝ちとつたと思つてます。  
私運も獄中にもありますが三里塚闘争の正当な正義を  
貫き通します。いろいろ心配かけてすみませんです。オ  
ヤジさんも体気をつけて。

三里塚闘争勝利万才！  
青年行動隊万才！

の広さは、畳が三畳半位で、二枚の畳がいてあり、水  
洗便所と洗面台が付いてあり、窓も両側にあるんだけど、  
外の景色は、あまりよく見えなけれど、空は西高く見え  
る。

朝は、七時に起きて、夕方四時にメシ食つて、六時半  
には床に入るの、外に居る時よりは、余程一日が早い  
ですよ。退屈ですが、夜は、ラジオが九時までやっ  
ているので聞ける。今は丁度便を聞く事が出来る。風呂  
には週二回入れるし、週四回は三〇分間外に出て、運動  
がやれる。

食物も一回六百円以内で週三回買えるし、石つげんや  
チリ紙、タオルやパンツまで買えます。どこまでやっ  
て金も使ひたいだ。

起きている時は、机が一つあつてそこで本を読んだり、  
新聞を見たりして気分を休ませています。自分の読みたい  
本は、プロにたのみますから、お金は家で払つて下さい。  
本場に部落の人やプロが良く来てくれます。  
今日で、(九月十八日)十七日になつて、五〇日位  
面会できる日があつて、四〇日位はやつてもらつて

いるので、時間にしては五分間ですが、外の様子も聞  
し感通している。差し入れの毛布もマクラも入りました。  
下着の方も充分あるから心配いらない。まだも引きが  
いる時期でもないから大丈夫。

そんな訳だから元気です。今日面会に来てくれ  
話によると、家にも水通を引いたとの事だから、風呂の  
方やプタの世話が大変になつたらう。バア様やチイ様  
にあまり心配したり、俺も過ぎぬ様、ミシは、しつかり  
勉強やれと伝えて下さい。昔も夜遅くつたり、無理  
し頑め様に働いて、からだに注意した生活を送つて下  
さい。プロや清春さんや松山さんなどもロシク言つ  
て下さい。テレビや新聞がワイワイさわぐ程の事をい  
のだから、周囲の状況を取らぬ様にやつてくれ。

他の体もまだまだ大丈夫だから、足が細くなつたり手が  
細くなつたりしてないから、顔が多少白っぽくなつた  
のと、手の豆と足の裏が薄くなつた位だから。

で、朝夕の冷え込みにも、風邪などひかれぬ様気を  
つけて下さい。

辺田部落の皆さんへ

又辺田部落からの差入もいただきました。

今部落では福地が忙しい毎日であると思つて  
遠播以来我々算中組は同盟の皆さんの連日の宣伝カ  
からの激励、面会、等の救援活動により何の不安も、心  
配もなく身心共に元気です。我々は再び重なる権力の暴  
挙に敵の危機を察し、勝つていきます。

権力のデッサン上げ、大陰謀に對し報復の剣をみがき最  
後の勝利の日迄頑張ろう。

八月三十日

前田 勝雄

三の宮 武二様  
たび九の差し入れ品ありがとうございます。たびぶ  
秋らしくなつて来ました。この生活にもだいがなれて  
脱糞どし元気な毎日を送つてあります。

竜崎 主計様  
竜崎 春雄

この間は面会 激励の手紙ありがとうございました。面会時間が短  
かくてあまりまとまった話しできなかったけど大変嬉  
しかったです。

どうもありがとうございます。高校生活は長いようで短か  
して一生の中で一番大切でいろいろな経験となりる要  
素を多分に含んでいる。充実した毎日を送り、後で悔  
いのない(あ、あの時、自分は、あ、やればよかった、  
とかやつとけばよかった)とかないに、青春の  
頭を送つてもらいたいと思つて。

もう二学期が始まりますね。がんばつて下さい。  
高校生活は友達作りが一番大切ですよ。  
シムエーアグン・長谷川吉作

光子様

三高生の話によると

これからも三里塚の映画を沢山作つて下さい。

九月二十日

梅沢 勝義

福田克彦様

私は元気です。不当にも現在は被告とい  
う立場で権力にたがわれている状態です。しかし私運反  
対同盟青年行動隊はかかる弾圧にも絶対に屈すること  
はありません。今までの中で「お前達が権力にたつてく  
のは国賊だ。だからそれと同じ処分をする」「お前が反  
対同盟や、青年行動隊をやめて条件派になればすぐ戻  
も出してやる。その反対にお前が権力に抵抗するならば  
絶対出してやらない。」といった調子で私運にせまつて  
きました。

- 14 -

- 13 -

絶対負けません。私達は山田君も、山田で空襲本

対反対の斗争をしてくるのが本当の道であり、今おかれ

ている私達市民の使命と思っております。今後いかなる

権力の弾圧に屈することなく戦ってゆきたいと思つてい

ます。権力は空襲反対同盟を恐れ、反対同盟の解体を

ねらっています。開港へも叫んでいこうと開港できないということ

を聞いています。今後私達は益々国産の輪を広げて空襲を粉砕するまで

戦ってゆきたいと思つています。反対同盟の皆さんよろしくお伝え下さい。

三里塚空襲粉砕！ 三里塚空襲粉砕！ 三里塚空襲粉砕！

加茂反対同盟様 相川 勝重 平上 ヒデ

辺田部落の皆さん。毎日の面会差し入れ等々本当にあ

りか、もう御座居ます。今日福助も始まっているとの事

で大変お忙しだと思います。そんな中での教養活動本

に御苦勞様です。立に心配に冬にもなつた九かという

日も続きまして、中で長袖にスポンを引っぱり出して、

いつもはステテコと半袖シャツ。風邪をひくまいと頑張

っています。今日はまだ曇りがちで雨も降って来てく

れたら五のの例の格好でラジオを聞きながら、日曜日

は午後ラジオ放送あり。手紙を書いています。中に入つ

ていろいろな書きたるに敏感になり健康管理は万端です。

そんな訳で精神・肉共に極めて健康でいます。中でも暮し

も慣れますと外で心配される母等々はありません。史の

短それは皆さんが差し入れてくれた本や毎日の面会があ

るからです。そんな訳で皆さんのお蔭で大変元気に楽し

く暮して居ます。そんな訳で皆さんのように尻尾を曲

では外の諸君によろしく。 長谷川 吉作 (小川 了範)

夏が過ぎて日本列島に秋がやってきました。 激しい秋はいいネ・・・

福助も終つたか。昨年と違って天気もいいから、は

かいついては(はかどつている)と思ひどころか、

先日は差し入れて下さる有難うございました。「九・一

六三里塚を闘う人民大集会」の成功を是非とも多数を

もって勝ちとり。残念ながら低連はここにいては、ど

うしようネ！ 普行、女部隊の便りどうも有難う！

我々普行は、みな元気で頑張っているよ。心配しない

でくれ、ではみんなよろしく！ 石井 壺(内田白民)

いな人だと思ふ)から後助の手紙が来ました。高浜人の

人だてはなです。同志・友人・知人等からもいろ

りか、もう御座居ます。今日福助も始まっているとの事

で大変お忙しだと思います。そんな中で教養活動本

に御苦勞様です。立に心配に冬にもなつた九かという

日も続きまして、中で長袖にスポンを引っぱり出して、

いつもはステテコと半袖シャツ。風邪をひくまいと頑張

っています。今日はまだ曇りがちで雨も降って来てく

れたら五のの例の格好でラジオを聞きながら、日曜日

は午後ラジオ放送あり。手紙を書いています。中に入つ

ていろいろな書きたるに敏感になり健康管理は万端です。

そんな訳で精神・肉共に極めて健康でいます。中でも暮し

も慣れますと外で心配される母等々はありません。史の

短それは皆さんが差し入れてくれた本や毎日の面会があ

にせす安心して皆さんの差し入れられた本を読んで勉

強しています。なんのつても折角の機会ですので、み

り顔の赤を巻いて置きたいと思つています。私事はか

り書いてしまいました。言い訳させて頂きますと手紙を

あまり書いた事ありません。まずは元気に暮してい

ることを期して頂ければ幸いです。また手紙を書きま

すので読みずいして下さるが我々も喜んで下さ

います。いろいろ御迷惑お掛けしますがこれからも宜しくお願

いします。 八月二十七日午後三時 瓜生 正彦

辺田空襲反対同盟の皆さんへ 前略

元氣か。九・一六の集会の大成功おめでとう。大川先

生から聞きました。獄中より御喜び申し上げます。大変

りか、もう御座居ます。今日福助も始まっているとの事

で大変お忙しだと思います。そんな中で教養活動本

に御苦勞様です。立に心配に冬にもなつた九かという

日も続きまして、中で長袖にスポンを引っぱり出して、

いつもはステテコと半袖シャツ。風邪をひくまいと頑張

っています。今日はまだ曇りがちで雨も降って来てく

れたら五のの例の格好でラジオを聞きながら、日曜日

は午後ラジオ放送あり。手紙を書いています。中に入つ

ていろいろな書きたるに敏感になり健康管理は万端です。

そんな訳で精神・肉共に極めて健康でいます。中でも暮し

も慣れますと外で心配される母等々はありません。史の

短それは皆さんが差し入れてくれた本や毎日の面会があ

りか、もう御座居ます。今日福助も始まっているとの事

で大変お忙しだと思います。そんな中で教養活動本

に御苦勞様です。立に心配に冬にもなつた九かという

日も続きまして、中で長袖にスポンを引っぱり出して、

いつもはステテコと半袖シャツ。風邪をひくまいと頑張

っています。今日はまだ曇りがちで雨も降って来てく

れたら五のの例の格好でラジオを聞きながら、日曜日

は午後ラジオ放送あり。手紙を書いています。中に入つ

ていろいろな書きたるに敏感になり健康管理は万端です。

そんな訳で精神・肉共に極めて健康でいます。中でも暮し

も慣れますと外で心配される母等々はありません。史の

短それは皆さんが差し入れてくれた本や毎日の面会があ

しかしその暴挙を持って自らの行為がきえ去るところか、さらに悪化の道をたどっているか、この権力は、その最後は切札を出したたのである。正に、国家の必要によつて、といふ名前は聞かぬが、現実には善良な百姓が遊いだのである。その中であつて我々の闘いが、必然的にその権力の物質的、重きをもちた闘いとしてあつた。そこには我々、当初の思いをすべて集申した、絶対勝利をもつての断固たる闘いがあつた。ある者は体をこぼしつけ、ある者は高い木にのぼり、ある者は互の体をこぼしつけ、とにかく色々な、ありとあらゆる方法で、何がなんでも死守しようという決意をもつて、闘いのぞんだ。それは、ある一面では背水の陣であつた。この闘いの持つていた質としては、己れの手で持っているものすべてを出して闘うことであり、大きな意味では、権力に対して、御前達をやるならこちらも徹底的にやるぞ、という意気表示の場であつた。それを行動をもつて示したのだ。しかしながらこの我々の真意は権力の前には何の意味もなかつた。彼等は國家権力の権威をふるひ、無類にも非人道的な行為及び、純粋な三里塚農民を困

への希望から遠ざけてしまつた。あの時の闘いは単なるスローガンのないものから政治的闘いではなく、文字通り、日本の一百姓として、一人民としての切実な哀しい闘ひだつたのである。夢やぶれたりといふ。この権力の暴挙に対する怒りは消されるものではなかつた。その時の闘いが、あの時の人々の声が大に響きわたつてあつた。日本中にひびいたこと、そして権力のその行為が全人民の前に完全な人びんではない、あの時のように行為が、今こそ全日本の人民の前にそれを有効とするか否か、権力自身問われているのだ。そのような法律とか國家を除く事が、再び人民の前に特効薬となる事ができるか。その真実を問ひ、あの時から本當に始まつたのだ。現在三里塚で同盟員個々に對する攻撃が、明らかに同盟員を意としたものであることは確である。その事は一方ではマスメディア等を通じての開港間近であるが、空港がいかに社会的必要性にせまれていること、そして最近ではパイプライン・鉄塔・根木名川河川の改修等事が遅れて、開港の見通しはさ

に遅れるといふような事を言つていた。このように一方では國家的メソッドのもとに一日でも早く開港したいが、実際には、見通しが確立できないといふ。この事実を見ても分る様に、工事の遅延の根本的原因はすべて、この間のいかに権力の暴挙にも阻害されてきたか、三里塚の住民として国家権力に對するそれらの住民の人々、全国的な支持と、共に闘う事の苦悶的な真理が我々の闘ひにあり、そしてそれなるとは、現実的には開港を遅らせざるを得ず、さらにはこれら國家にそむく人々は、権力に對しては正にこの上もない被害者であり、それなるとは、進行の遅延が出来るかといふ、この事実こそ、我々の闘ひの成果であり、この我々の存在を今こそ、こまかしの真実として、自らが心

深くたしめ合ふ時だと思ふ。このように、我々三里塚の住民と、それと共にいる人の存在こそが、それを自信をもつてたしめ合ふ事こそが、これからの闘ひのすべての無類の原動力であり、いかなる権力に對しても、そこに三里塚が存在することが、我々の闘ひの正義の真理である。この事を日本全國の十

柳川 秀夫  
(大川 宏  
菅野 泰宛)

前略  
またま暑い日が続きます。皆さん元気ですか。西瓜のあとがふすけや、福列りを前にして、忙しそうです。その忙しい中、毎日の備忘・面会・差入活動等、張切つて下す。誠にありがたう思つています。自らはいたって元気、このまわたくもって大平満ではあります。房内生活をそれなりに消化してあります。また朝起きて、掃除・洗濯・点検・食事、点検と食事の間に自分なりに読書の体操をやつてあります。それからまで入浴して、今日の本を讀んだり、ブル新(朝日)を讀んだり、又色々なセグメントの機誌(金まわりむかし)で理解できない、さ見たりしてすこしてあります。その内、風呂が一週間に一回、運動が三回くらいあり、面会にも誰か来て下さるのでそんなに退屈ではありません。そして夜になると、岩山の方でも鳴く虫がけつこう遊周をまきざりしてくれます。それから今月の十六日から新しい岡宮マシンの方に引越しました。前のよりすつと日当りはよいし、明るくてとても感じがよいです。宣伝カーの声もよく聞かれます。中では、たまに青行の運

中の顔を見る事も有りませんがみんな元気です。心配なく、それからこの間、青行のくノ一から激励の手紙、中郷婦人行動隊から激励のよせ書をいただきました。大変勇気づけになりました。よろしく言つて下さい。まあ、そんなわけで当方毎日元気です。外では暑い中大変ですが、中の方はそれほど心配ありませんので体気をつけてがんばつて下さい。では皆さんよろしく伝えて下さい。  
プロハオエ  
八月二十八日  
長谷川 吉作  
(内田国民宛)

いることと思つて、私の入つている部屋は二階の壁です。部屋は三畳半です。青行の同志も、あちこちと分散して入つていますが、連動・風呂・面会に行く時などは前の廊下を通るので、顔を見ることが出来ます。そして皆元気で頑張つておられる様子です。もちろん話しをする事は出来ませんが、  
毎日食ふ事と寝る事が日課、毎日力仕事をしていたものは身をもてあます感じが、ここ二、三日は涼しい日々がまた八月半の日が続くと思つて、暖房・面会と大変だと思つて、御身体を大切に、青行隊の苦境にも元気でありますからと伝えて下さい。近況まで又手紙書きます。  
島村 昭 治  
(小川 了宛)

と心配していることですが、私は元気いっぱい頑張つています。毎日日本を見ながら大福をくちどいつ水生活なので、なんか外にいる人達に悪い気がしますが、俺が一番心配なのは家のことです。家の者が元気できてくれればなにも心配することがないです。だから俺が出るまできばつていようが頑張つてくたさい。前島の人達ががんばっていることですから心配なれと思つて、部落の人達に迷惑をかけてはいけません。みんなによろしく伝えて下さい。  
それから弟のことですが、みんなからきいた話ですが、が元気なようですから心配ないと思つて、相川も言っていました。俺よりもしつかりして、それから中郷と辺田の婦人行動隊からはけました手紙をもらいました。また返事だしてないのでこれから出します。あつたら話を言つて下さい。ここにいる時に色色本を見たいと思つたので、次の本を入れて下さい。(仇の家にある。高橋和巳の「我思想の解体」―石川啄木詩集―「宮沢賢治詩集」、田中正造、島崎藤村、漢和辞典、以上。あと家になくて見たい本、宮本常一、こ

島村 昭 治  
(小川 了宛)



今や三里塚の拡大原野が起され、赤土の肌がむき出しにされ、権力が、滑走路がデーンと陥っている様は、なんとも醜い姿である。

我々には、拡大原野が奪われたことはあっても、それ以上に、我々の側に得たものは大きく重要なものがある。その闘い反権力の思想が、三里塚から人民の中へ拡って行くことは、紛れもない現実であるからだ。

今、徳永中にも自由を奪われているのは辛いことですが、捕えられていても何か充実した感じというのがある。捕えられても、三里塚に居たんで、三里塚という言葉を、使うに、うしろめたいものがあったと思えてなりません。高校生活も終る頃、社会の中の身をおく事が非常に恐ろしく、やはり人並に、社会の要求する人間にならなければならぬなと思ってましたもんです。

けど、今思っているような、権力を権力人間像ではなかったことは確で、ともすれば、そういつた影響から逃げ

たいと思つて、自己をいかに正当化してまかせた言つた道求めたと言つた方が本当であると思つています。

はじめは権力に奉仕する農業請け負い者としての生活やがて闘いを意識するようになり、権力の支配構造の中の農業を意味するようになり、人民のための農業をしようと思つたものである。そして農業を行うと、その客観的状況はいまだ容易でないけど、我々の経験した七年前には、要するに多くの青年達がいて、他の何物にも及ばない実在としてある事は、今の三里塚が語ってくれる事である。それが、今この青年達が獄中に捕えられている事もあるが、いたしかたのない事である。

いつ頃から出られるかわからない辛い生活も、やがて理窟であるが、三里塚の闘いと思つて、そういつた姿をみている時、何も言えない感じがあります。我が人生にとって、いまだ三里塚七年前の闘いではないが、当初の一年はずに七年をもち、今の七年は、我が一生として三里塚にあらねばと思つて、結城、長い間の歴史が俺達にはあるんではないと思つています。

けど、三里塚の闘いで、俺達は農業に闘つて来たつても

りです。これからは農業に闘いたいと思つて(権力はなかなかそうはさせてくれませんが)、ペンをとりました。もつと書こうかと思つたけど、御時間(暴走)がよろしく、終わります。

青年行動隊 石井 恒 司  
小川 了 様  
獄外で頑張っている青年隊様

日別逮捕者数

逮捕日	青年隊	三高協	計
12・8(第1次)	9(2)	1(0)	10(2)
12・29(第2次)	7(6)	1(0)	8(6)
1・5(第3次)	3(3)	3(0)	6(3)
1・9(第4次)	3(4)	2(0)	5(4)
1・14(第5次)	4(2)		4(2)
1・18(第6次)	2(2)		2(2)
1・31	1(0)		1(0)
2・2(第7次)	4(4)		4(4)
6・6(第8次)	0		支援のみ
6・22(第9次)	5(5)		5(5)
7・5(第10次)	12(8)		12(8)
7・14(第11次)	5(4)		5(4)
7・28(第12次)	5(4)		5(4)
8・1(第13次)	5(4)		5(4)
9・6(第14次)	2(0)		2(0)
合 計	67(45)	7(0)	74(45)

※ 第10次以後、「傷害」「傷害致死」容疑。( )内は起訴者数  
第10次逮捕以降、3ヶ月にわたる長期拘留を闘い抜き  
10月3日・4日の両日20名の青年隊員を輩出しました。

### 緊急、カンパの訴え

三里塚空港粉砕青年行動隊  
救済・財政委員会

昨年の十二月八日に始まる我が青年行動隊並びに支援の労働者・学生にかけられた弾圧は、現在まで延べ百十六名の逮捕、七十名の起訴という謀略的大弾圧として現われてきました。

国家権力の暴力的土地取得と真向から対決した農民の正義の闘いに対し、千葉地裁は、「傷害致死」なるデッチ上げ罪名で起訴し、3ヶ月に及ぶ長期拘留を強いたが、不退転の決意と三里塚抗争勝利の確信に燃え、獄中を闘い抜いた我が同志二十名を確保させるを得なくなつたのです。

さらにこの権力の攻撃を全人民の手によってはねのけ、今後の長期に渡る裁判闘争へ向け、我々の戦線の強化を克ち取る為にも、此処に緊急カンパを訴えます。

(送り先)千葉県成田市南三里塚  
小川 了



**表紙の言葉**

「表紙から読み」  
 それでも尚、かたく握られた警棒は人民の頭上にふりおろされるの  
 だが、これを隠し続ける事を含めて悪意は成り立ち続けるのだ。  
 などと考えて僕は不安になるのだよ。こんな平和に満ちた社会の中  
 にあっては、この考えは僕達の想像妊娠、或いはパーズンパイズ  
 ではないかと思つて不安になつてしまふのだが。  
 でも、あのマリア様だつてパーズンパイズでキリスト様を産んだの  
 だから、僕はひよつとしたりマリア様と同じくらい偉いのではない  
 か、などと安心して過ぎてニヤついたりするのだよ。  
 一九七二一一〇一四

石毛 博道

**三里塚青年行動隊員の  
獄中からの手紙第二集**

額 価 百円

発行日 一九七二年十月

発行 三里塚空港紛争青年行動隊

取扱い 小川 千葉 成田 市南 三里塚

T F 1 〇 四 七 六 三 五 三 五 五

